

4月に入り気温が高めに推移したことから生態は5日程度進んでいます。  
展葉1週間後頃の薬剤散布は4月20日頃からと予想されますのでSSの準備や走路の確認を行いましょ。また、今後は凍霜害を受けやすくなる時期です。気象情報には十分注意して対策を万全に行いませ。

★ふじの生態と薬剤散布の予想 4/14 現在 ※色塗りは予想となります。

地点	生態	発芽日	展葉日	開花日 予想
五代		4/7	4/13	5/2
百沢		4/10	4/17	5/5
吉川		4/10	4/20	5/8
大秋		4/	4/	5/
りんご研究所		4/6・(4/7)	4/12・(4/18)	5/(5/7)



● りんご研究所は()が平年となります。

※開花予想は今後の気温により大きく変動する可能性があります。

★病害虫防除

黒星病防除の重点防除時期となります。散布量・散布間隔・降雨前散布を徹底しましょう。

回数 (散布量)	散布時期 (散布日)	薬剤名 及び調合順序	倍数	1,000ℓ 当り薬量	防除上の注意
1 (300ℓ)	ふじの 展葉1週間後頃 4月20日～	精製マシン油 ダースバンDF ベフラン液剤	200倍 3,000倍 1,000倍	5ℓ 167g×2袋 500ml×2本	○サンホーゼカイガラムシの発生が見られる園地ではアプロード1,000倍も使用しましょう。
2 (320ℓ)	ふじの 落花直前 4月30日～	カナメフロアブル カスケード乳剤	4,000倍 4,000倍	250ml×1本 250ml×1本	○モニリア病の多発が心配される場合は、トップジンM水和剤1,000倍を使用しましょう。
3 (350ℓ)	ふじの 落花直後 5月10日～	ミギワ20フロアブル チオノックフロアブル カスケード乳剤	4,000倍 500倍 4,000倍	125ml×2本 2ℓ×1本 250ml×1本	○リンゴハダニの見られる園地ではピラニカ水和剤2,000倍を散布しましょう。
4 (420ℓ)	ふじの 落花10日後 5月20日～	ユニックス顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 スプラサイド水和剤 クレフノン	2,000倍 600倍 1,500倍 100倍	500g×1袋 1.67kg×1袋 667g×1袋 10kg×1袋	○マメコバチの活動が見られる場合は、殺虫剤を落花20日以降に散布しましょう。

※SDHI剤(カナメ・オルフィンなど)、ミギワ、ユニックスは薬剤耐性発生の恐れがあるため年1回の使用とする。

※散布日は管内の平場の目安となります。自園地の生育状況を確認し、適期に薬剤散布を実施してください。

★凍霜害対策

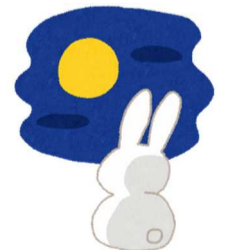
発芽から開花期は、最も凍霜被害を受けやすい時期です。特に午後7時の気温が6℃以下で晴天無風になると降霜の危険性がありますので、防霜ファンや燃焼資材を用いて霜対策を徹底しましょう。

- 燃焼資材は、各生育ステージの危険温度より1℃高い時点で点火する。
- 防霜ファンは、温度検査器を地上から1.5mに設置し、始動温度を2℃に設定する。

凍霜害に対する安全限度温度

生育時期	危険温度の目安
展葉初期・花蕾露出期	-2.1℃
花蕾着色期	-2.0℃
開花初め	-1.5℃
落花期	-1.7℃

満月・新月は低温や降霜に襲われる可能性があるため注意する！



★マメコバチの管理



- 防鳥網の内側に土取り場として穴を掘り、穴の土が乾燥した場合は水を入れて湿らせましょう。
- アシガヤの更新はマメコバチ増殖のために3～5年に一度交換しましょう。
- 巣箱を冷蔵保管している場合は展葉1週間後頃の薬剤散布から2～3日後に設置しましょう。

★人工授粉

人工授粉は積極的に行いませ！貯蔵花粉が無い場合は開花の早い品種(王林)を開薬して人工授粉を行いませ。

人工授粉の 作業目安	花の採取量 1手かごで約20～30a分とれます(王林で乾燥薬おおよそ50cc) ラブタッチ 作業量 10a当たり 2時間程度(凡天授粉の1/4) 花粉使用量 10a当たり 花粉20g + 石松子80g
---------------	--

※「王林」は開花期の低温遭遇(15℃以下)により、発芽率の低下や純花粉量が少なくなります。

「ふじ」「世界一」「シナノゴールド」「金星」「はるか」の5品種は開花期の低温時でも発芽率が高く花粉量が多い品種となっているので翌年のために貯蔵花粉の準備を行いませ。

- 発芽検定により発芽率が低い場合は通常より濃い希釈倍数で使用するか、発芽率の高い品種と混ぜて授粉するようにしましょ。